

平成29年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検・評価報告書



保幼合同園児の歌



早島ESDタイム・小学生の発表



早島ESDタイム・中学生の発表



子どもシンポジウム

平成30年3月

早島町教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催	2
2	研修会及び協議会	4
III	教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況	
1	教育委員会の体制	5
2	教育委員会の点検・評価の視点	5
3	教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価	5
	① 会議の運営等	
	② 教育委員会の公開性	
	③ 基本的・総務的な事務の管理	
	④ 人的管理事務	
4	学校教育重点事業に対する評価	9
5	生涯学習重点事業に対する評価	14
IV	点検・評価に関する有識者からの意見	19
V	おわりに	21

I はじめに

1 点検評価の趣旨

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第26条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

2 点検評価の対象及び方法

教育委員会が平成29年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏名	性別	任期
教育長	徳山 順子	女	H27. 12. 26～H30. 12. 25
教育長 職務代理者	林 泰 充	男	H26. 4. 1～H30. 3. 31
委員	森 綾 子	女	H26. 10. 1～H30. 9. 30
委員	綾野 克紀	男	H29. 4. 1～H32. 3. 31
委員	大森 茂	男	H29. 4. 1～H33. 3. 31

審議案件等

開催日	議 決 等 事 項
4月28日（金）	【議事事項】 (1) 早島町教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について（平成28年度実施事業） (2) 早島町立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部改正について
5月26日（金）	【議決事項】 (1) 早島町教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について（平成28年度実施事業） 【議事事項】 (1) 「平成29年度 教育施策の概要」について
6月23日（金）	【議事事項】 (1) 早島町人権教育基本方針について (2) 学校園の働き方改革について (3) 早島町一貫型教育について

7月21日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町立図書館規則の一部を改正する規則について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 県（町）学力・学習状況調査の概要について</p> <p>(2) 部活動支援員派遣事業について</p> <p>(3) 早島町一貫型教育について</p>
8月23日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 幼稚園就園補助金交付要綱の一部を改正する要綱について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 早島町部活動支援員派遣事業について</p> <p>(2) 早島町一貫型教育について</p>
9月23日（金）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 全国学力・学習状況調査結果概要について</p> <p>(2) 小学校授業参観・給食試食会について</p>
10月25日（水）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) ゆるびの舎文化ホール毎月当初日の予約受付方法の変更について</p> <p>(2) 早島町町民総合会館管理運営規則改定について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 来年度の施策について</p> <p>(2) 義務教育学校視察について</p>
11月24日（金）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 義務教育学校先進校視察の報告</p> <p>(2) 早島町一貫教育について</p>
12月22日（金）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 「早島町立学校・食物アレルギー対応の手引（案）」について</p> <p>(2) 「早島町公民館モデル検討懇談会開催要項（案）」について</p> <p>(3) 義務教育学校に向けて</p>
1月26日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町立中学校部活動支援員派遣事業実施要綱の一部を改正する要綱について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 平成30年度予算要求と施策について</p> <p>(2) 子どもと大人の意見交流会「第2回熟議」について</p> <p>(3) 登下校「見守り隊」について</p>

2月27日（火）	【議決事項】 (1) 早島町少年善行表彰規定の一部改正について (2) 早島町いじめ対策基本方針の一部改正について (3) 早島町就学援助要綱の一部を改正について 【議事事項】 (1) スマートフォン等の利用に関する実態調査について (2) 英語検定受験応援制度について (3) 学校園ボルダリング・スラックライン活用事業について
3月27日（火）	【議事事項】 (1) 平成30年度教育委員会主要事業について (2) 今後の行事について ・平成30年度入学式、授業公開日等

2 研修会及び協議会

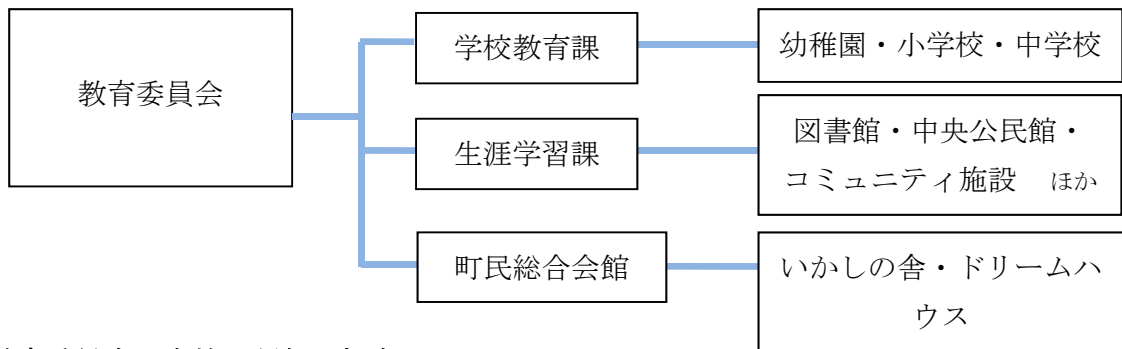
開催日	研 修 会 名 等
5月8日（月）	平成29年度市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会（吉備中央町） 参加者：教育長 他2名
7月11日（火）	平成29年度岡山市町村教育委員会連絡協議会総会（倉敷市） 参加者：教育長 他4名
8月1日（火）	早島町地域フィールドワーク・ESD教員研修会 参加者：教育長 他1名
8月3日（木）	子どもと大人の意見交流会（第1回熟議） 参加者：教育長 他2名
11月14日（火）	義務教育学校視察（横浜市立義務教育学校西金沢学園） 参加者：教育委員 他3名
11月21日（火）	義務教育学校視察（高知市立義務教育学校土佐山学舎） 参加者：教育長 他3名
11月7日（火）	平成29年度岡山市町村教育委員会連絡協議会研修会（倉敷市） 参加者：教育長 他4名
1月13日（土）	子どもと大人の意見交流会（第2回熟議） 参加者：教育長 他3名
3月3日（土）	第4回教育のまち・はやしま子どもフォーラム 参加者：教育長 他3名

3 総合教育会議

開催日	議 決 等 事 項
8月23日（水）	第1回総合教育会議 【議事事項】 (1) 早島町一貫教育について
11月24日（金）	第2回総合教育会議 【議事事項】 (1) 義務教育学校の視察報告について (2) 早島町一貫教育について

III 教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1 教育委員会の体制



2 教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
① 会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
② 教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③ 基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④ 人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3 教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

① 会議の運営等

項目	会議の回数、円滑な進行
目標	会議の実施回数は年間12回を目標とし、事務局から早めに適切な情報を受け、会議運営を円滑に行うことに努めるとともに審議を深めることで、会議の充実を図る。
成果課題	<p>○開催回数は12回、総合教育会議2回で、充実した審議が行えた。</p> <p>○議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換が活発に行った。</p> <p>○授業公開日や行事等には、積極的に参加し、各学校園の状況を把握した。</p> <p>●当日の資料配付であり、前日までに配付されると意見が言いやすい。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の会議で、事業の進捗状況や学校園の様子を理解するなど、円滑に協議を行うことができた。 ・委員会の議決案件については、内容量の多いものについては、引き続き事前の配付を求める。 ・学期毎に学校訪問日の設定や、公開授業・行事等に積極的に参加するなど、学校園の状況把握に努める工夫を行う。

② 教育委員会の公開性

項目	会議の公開、事業内容等の広報
目標	教育委員会の会議内容や実施事業等を広報誌やホームページへ掲載・公開することで、町民に教育行政に対する関心を高める。
成果課題	<p>○早島町学校教育ビジョン、はやしま学支援本部の活動等はホームページや町広報誌、教育フォーラム等で積極的に広報した。</p> <p>○教育委員会会議の概要をホームページに掲載することができた。</p> <p>●教育委員会開催の通知や協議内容について、ホームページへの掲載をスピードアップしたい。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校園の取組や、はやしま学支援本部を中心とした教育活動を様々な方法で、積極的に地域住民等に広報していく。 ・会議録の公表は、会議概要を毎月ホームページ上に引き続き掲載する。

項目	町長等との連携
目標	町長や教職員、学校運営協議会委員との情報交換を密に行うことで、改善に向けた、貴重な意見を施策に反映する。
成果課題	<p>○総合教育会議や課長会議等で、町長部局との情報交換を行った。</p> <p>○29年度から事務局を中学校に置き、幼小中合同の学校運営協議会を年6</p>

	<p>回実施した。また、学校評価の項目として、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化が見えるようにした。また、一貫教育の視点から、学校関係者評価を年2回実施することで、学校運営の改善につなげた。</p> <p>○「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」を3月に開催し、「ESD持続可能な教育の町づくり～理想のはやしま学園を目指して～」をテーマに、園児児童生徒や教員が地域に取組を発信するとともに、子どもによるシンポジウムを行い、大変好評であった。</p> <p>○8月と1月に「子どもと大人の意見交流会（熟議）」を実施し、児童生徒・地域住民が活発な意見交換を行うことで、地域の課題や改善等を共有することができた。</p> <p>○「教育のまち・はやしまフォーラム」に、幼稚園・保育園合同メッセージとして園児の歌が大変好評で、多くの保護者や住民が参加した。</p>
<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校の推進に向けて、総合教育会議での更なる検討が必要である。 ・学校運営協議会については、学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会の各部会の支援活動が充実した。 ・早島町学校教育ビジョンの推進に向けた、「教育のまち・はやしまフォーラム」は第4回を迎え、回を重ねるごとに地域への発信力となっている。 ・保育園・幼稚園の合同メッセージや、小学校・中学校の総合的な学習の時間の探究活動発表を各2学年で実施できるよう計画的に取り組んでいく。 ・「子どもと大人の意見交流会（熟議）」は、児童生徒や地域住民から、多くの建設的な意見が出された。熟議で話し合ったことをフォーラムで地域発信し、改善に向けた共通理解を図るなど、とても評価のできる会であった。

③ 基本的・総務的な事務の管理

<p>項 目</p>	<p>方針・事務事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施</p>
<p>目 標</p>	<p>教育行政重点施策を策定し、円滑に事業が実施されているかを確認する。また、必要に応じて規則の制定・改廃を行う。</p>
<p>成 果 課 題</p>	<p>○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。</p> <p>○義務教育学校の設置を踏まえた「学校教育法」の一部改正に伴い、今後の早島町の一貫教育の在り方について検討を行った。全国的に注目を浴びている義務教育学校2校の視察を行い、早島町の方角性を検討した。</p> <p>○整備計画では、小学校教室改修に伴う床改修、中学校管理棟渡り廊下シャッター改修工事、中学校図書室ネットワーク構築、小学校教室建具改修工事、小学校砂場改修工事、幼稚園バルコニー改修等を行った。</p> <p>○生涯学習課の事業については、社会教育委員会において、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。</p>

	●公共施設のトイレ洋式化や小学校の床の改修工事が年度内にできず、繰り越した。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の長寿命化計画の策定に係る調査を行い、中長期的な維持管理の見通しをもち、教室改修工事等を計画的に実施する必要がある。 ・小学校トイレ洋式化や小学校教室改修工事など、早期に計画的に取り組んでいき、過ごしやすい環境を整備することが大切である。 ・5年後を見据えて、学校施設の計画的な改修に向けて予算化を考える必要がある。

④ 人的管理事務

項 目	教職員等の人事
目 標	幼稚園、小中学校の適正な人員配置を行う。
成 果 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校においては、35人学級を継続し、充実した学習環境を実現した。 ○小1グッドスタートは、町独自で12月まで実施するなど、必要に応じた支援員の配置を行った。 ○中学校では、学校司書を配置し、図書電算化や図書館の環境整備を行うなど、読書活動の充実を図った。 ○小学校英語の教科化に向けて、外国語指導助手（ALT）の増員を行い、中学校1名、幼稚園・小学校1名の2名配置として、英語教育の充実を図った。 ○不登校対策として、小学校の登校支援員も1名増員し、2名配置により、登校しにくい児童への対応に教育効果があった。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における35人以下学級、小1グッドスタートの延長は、落ち着いた学級環境づくりのために継続していく必要がある。 ・小学校英語の教科化に向けて、ALTの増員を行い、小中学校に各1名配置し、英語教育の充実を図っていくとともに、小学校には、英語専科教員を配置し、外国語活動の充実を図っていく。 ・中学校に学校司書を配置し、電算化や図書館整備を行ったが、読書活動を今後さらに推進するために、学校図書館の蔵書整備を行う必要がある。

項 目	研修の実施
目 標	教育委員会が主催する全学校園の教職員を対象とした研修を計画的・意図的に開催し、指導力の向上に努める。
成 果 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に、コンプライアンス推進員を中心に、信頼される教職員であるためのサービス研修を行い、不祥事防止の周知徹底を図った。 ○各学校園では、On-The-Job Training（OJT）の充実を図り、若手教員の指導力を高めるとともに、夏季休業中には、若手教員等を対象とした表

	<p>現活動、プログラミング、英会話等の研修を行い、教員としての資質能力の向上を図った。</p> <p>○地域フィールドワーク研修では、早島町にある自然・文化・歴史等をE S Dの視点で見直し、ロイロノートを活用し、早島のお宝発見ビデオを作成した。教職員の早島への愛着心や所属感を高めるとともに、生活科・総合的な学習の時間の教材研究を深めた。</p> <p>○道徳の教科化に向けて、全国的な講師を招聘し、道徳の授業づくりの基礎基本や中心発問のあり方・道徳資料の内容項目や、学習評価の工夫等について研修を行い、「考え・議論する道徳」の授業づくりへの意欲を高めた。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・E S Dを踏まえた総合的な学習の時間や道徳の時間の充実など、先進的な内容を計画的・継続的に実施することで、保幼小中学校15年間を見据えたカリキュラムの再構築しつつある。 ・保育園の職員にも積極的に呼びかけ、保幼小中一貫教育の取組がさらに充実してきている。 ・不祥事防止や指導力向上に向けて、心に響く参画型研修やO J Tを効果的に活用するなどして、教職員の指導力を高めている。

4 学校教育重点事業に対する評価

○数値目標

項目	県現状	県目標値(H32)	早島小		早島中	
			H28	H29	H28	H29
全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国平均との差	【小6】 国A: 0.2 国B: 0.5 算A: 0.4 算B: 0.1 【中3】 国A:▲0.4 国B:▲1.2 数A:▲0.6 数B:▲1.1 (▲マイナス)	10位以内(県) 各科目とも <u>±3ポイント以上(町)</u>	【小6】 国A:▲0.4 国B: 0.5 算A:▲0.2 算B: 3.3 (▲マイナス)	【小6】 国A: 3.1 国B: 3.0 算A:▲0.3 算B: 1.5 (▲マイナス)	【中3】 国A: 1.3 国B: 2.4 数A: 4.3 数B: 6.1 (▲マイナス)	【中3】 国A: 1.5 国B: 3.2 数A: 0.3 数B:▲1.3 (▲マイナス)
学級がうまく機能しない状況が発生している学級数	11学級	9学級	1	0	0	0
小中学校における不登校の出現割合(児童生徒1千人当たり)	13.3人	9.6以下	6.3人 ※(5人)	12.7人 ※(10人)	29.6人 ※(10人)	38.5人 ※(13人)
「授業の内容はよくわかる」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6 74.7%	81.0%	80.9%	82.9%	81.9%	72.1%
	中3 69.8%	72.0%				
スマホを平日3時間以上	小6 7.0%	5.0%	6.4%	4.7%	7.2%	16.3%

上利用する児童生徒の割合（小6中3対象）	中3	18.2%	10.0%				
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合（小6中3対象）	小6	71.0%	71.0%	69.9%	71.3%	64.8%	74.0%
	中3	59.2%	70.0%				
「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合（小6中3対象）	小6	70.8%	71.0%	62.7%	75.9%	50.5%	53.8%
	中3	44.9%	47.0%				
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合（小6中3対象）	小6	38.5%	50.0%	36.5%	34.3%	13.5%	15.4%
	中3	18.5%	25.0%				
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小6中3対象）	小6	41.9%	50.0%	42.1%	46.3%	31.5%	45.2%
	中3	38.3%	50.0%				
1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合（小5、中2対象）	小5男子	5.7%	5.2%	0%	6.4%	3.8%	12.0%
	中2男子	7.1%	5.8%				
	小5女子	10.5%	11.0%	0%	13.9%	21.6%	21.4%
	中2女子	20.7%	21.2%				

○重点事業

重点項目	小中一貫教育の推進
目的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備え、地域とつながり、未来を拓く、はやしまっ子の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、岡山県学力・学習状況調査に加え、町独自で小4～中3を対象に学力調査を行い、その結果を分析し、授業改善等を行う。 ・「目指す子ども像」を共有し、発達段階に合わせてカリキュラムの再構築に取り組む。
成果課題	<p>○学びの質や深まりに焦点をあて、子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や幼小中合同で12年間を見通した研修を行い、教員の指導力向上を図った。</p> <p>○ESDの視点を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の小中連携カリキュラムを再構築した。</p> <p>○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査結果を踏まえ、具体的な改善策に取り組んだ。</p> <p>○読書習慣づくりや家読書に、家庭との連携のもと、保幼小中が一体となってチャレンジカードを活用した取組を行い、成果を上げた。</p> <p>●学力・学習状況調査結果から、同じようなつまづきが繰り返し起こっている傾向が見られるため、全学年での情報連携・行動連携に取り組む必要がある。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●探究活動の質の向上や思考力を高めるために、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた不断の授業改善に取り組む必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの質や深まりに焦点をあて、各教科・道徳・総合的な学習の時間等において子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法について講師を招聘し、参画型の研修会を実施する。 ・国の研究指定を受け、E S Dの視点を踏まえた探究活動の質の向上・カリキュラムの再構築に学校園が一体となって取り組む。 ・県・全国調査に加え、小学4・5年生（理科・社会）、小学6年生（社会）、中学1・2年生（理科・社会）、中学3年生（社会・英語）の町学力調査を行い、児童生徒の学力を分析し、教育指導の成果と課題を検証し、経年比較を行うとともに、全教職員で改善策を徹底することで教育効果を高める。

重点項目	早島町学校教育ビジョンの充実
目的	地域とつながり未来を拓く子どもの育成に向けて、保幼小中の一貫した教育を進める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた「目指すべき子ども像」を明確にして、教員の指導力・授業力の向上を図る。 ・放課後・土曜はやしま塾、漢字検定・英語検定、英会話塾・国際塾等を企画・運営し、学校外での子どもたちの学びの場を提供する。
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を中心に、保育園・幼稚園・小学校・中学校が「めざす子ども像」を共有し、情報連携や園児・児童生徒の交流を深めた。 ○「協働・協学・協育」の町づくりを目指し、学校の教育活動の再構築を行った。また、はやしま学協働本部を設置し、教育支援コーディネーターを中心に、社会教育ではやしま学の活動について企画・運営を行った。 ○児童生徒の地域での学びの機会を保障するため、放課後・休日のはやしま塾、や国際塾、土曜 Enjoy English Juku を開催した。土曜 Enjoy English Juku ではオンライン英会話を活用し、英語に慣れ親しむ機会を設定した。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して12月に英語暗唱コンテストを開催し、小中学生18名が参加した。 ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を7回開催し、4部会を設置することで、保幼小中の教員がチームで研究に取り組んだ。 ●部会で様々な視点から意見交流はできたが、校内での情報連携をさらに深めるとともに、一貫教育に向けた具体の成果物を作成する必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・土曜はやしま塾、土曜 Enjoy English Juku、はやしま国際塾、ロゲイニング等の更なる工夫を行い、子どもたちの学びや体験の場を保障する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・協働活動推進員（教育支援コーディネーター）を中心とした支援体制のもと、大学生や留学生の活用、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保に努める。 ・環太平洋大学等の留学生との交流の場を広げ、早島から世界に視野を広げるきっかけづくりを行う。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてを工夫する。
--	---

重点項目	不登校対策事業の継続
目的	不登校児童生徒への対応と未然防止を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策担当者会議などを継続的に開催し、長期欠席・不登校児童生徒の減少を目指す。 ・早島町適応指導教室（ふれあい教室）等の充実や、スクールカウンセラーの効果的な活用、教育相談の充実を図り、生活リズムの改善や学校への登校を促すようサポートする。
成果課題	<p>○適応指導教室（ふれあい教室）や中学校心の教室に、支援員を配置したことで、児童生徒の居場所づくりができた。</p> <p>○小学4年生～中学3年生まで年2回実施する hyperQ-U調査の活用により、児童生徒一人一人の多面的理解や学級集団への所属感などを把握し、ほめ言葉のシャワー等、具体的な取組を全教員で行うことで、教育効果を高めた。</p> <p>●小学校では登校支援員2名を配置し、欠席3日までの取組やきめ細かなかわりを行ったが、長期欠席児童の欠席日数が増加した。</p> <p>●昨年度と比較してスクールカウンセラーの保護者・生徒の活用頻度は高くなったが、ケース会議の充実など、学校全体で更なる改善に取り組む必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室（ふれあい教室）に支援員を週5日配置し、学校との連携を深め、不登校児童生徒の生活リズムの改善や学校への登校をサポートする。 ・不登校対策担当者会を2か月に1回実施し、登校支援員、担当教員及び教育委員会が、「保幼小中校種間連携による就学前からの切れ目のない支援のあり方」をテーマに、保幼小中の情報を共有し、講師を招いて研修することで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に徹底して取り組む。 ・町教委で「不登校親の会」を開催し、個別相談や保護者会を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援・学校支援を行う。 ・小学校登校支援員2名の配置により、きめ細かな支援を行うとともに、小中学校ともスクールカウンセラーの効果的な活用に取り組む。

重点項目	学校におけるICT教育の推進
目的	ICTの活用により、児童生徒の学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における情報教育支援員の配置を継続する。 ・授業での電子黒板付きプロジェクターや、iPadの活用を促す。 ・小学校段階におけるプログラミング教育の実施に向けて、ロボホンを活用した教員研修の実施を図る。
成果課題	<p>○小中学校とも、デジタル教科書の使用を通して、視覚的効果を高めるなど、授業の中でICT機器を積極的に活用し、児童生徒の学習意欲を高めた。</p> <p>○教員がiPadを使用し、情報収集や記録をまとめるなど、地域フィールドワーク研修で、必然的に活用方法を学ぶ研修に取り組んだ。</p> <p>○全児童生徒に、電子教材のパスワードを渡し、自学自習の力を育み、家庭学習の充実を図る。</p> <p>●全教職員が、ICT機器を活用した具体的な指導法の研修やプログラミング教育の充実に向けた研修に、継続的に取り組む必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における情報教育支援員の配置を継続するとともに、職務内容の見直しと充実を図る。 ・小中学校に、教室用パソコン（小学校30台、中学校15台）を配置し、児童生徒の学び合いがICT機器を媒介として効果的に活用できる授業工夫を行う。 ・小学校にiPadを120台購入し、授業の充実を図る。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ICT機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間を確保と働き方改革を行う。 ・小学校段階におけるプログラミング教育の実施に向けて、教職員研修の実施や、情報教育推進に向けたリーダーの育成を行う。

重点項目	小学1年生グッドスタート事業の補充
目的	小学校へ入学する児童の生活習慣や基礎学力の向上を支援する。
計画	支援員を配置する期間を、町費で4月～12月まで配置する。
成果課題	○支援員を各学級に配置することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる環境を整えることができた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレムの解消のため、継続した配置を行っていく。

重点項目	グローバル人材の育成
目的	英語に慣れ親しんだり、英語をツールとして、間違いを恐れずに、自分の意見

	や考えを表現するなど、国際人としての基礎を培う。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校にALT（外国語指導助手）や英語専科講師を配置する。 ・小学校での英語の教科化を見据えて、英語授業の先行実施と授業改善を図る。 ・土曜英会話塾や英語暗唱コンテストを開催する。
成 果 課 題	<p>○幼稚園での英語でダンスや、小学1年生からの外国語活動を通して、英語での会話に慣れ親しんできた。</p> <p>○土曜 Enjoy English Juku のオンライン英会話を活用や、英語暗唱コンテストの実施により、地域で生きた英語にふれる機会を設けた。審査員や講師をALTにすることで、英語を使う必然性を設けた。</p> <p>●小中連携の英語授業のカリキュラムを構築する必要がある。</p>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の先行実施に伴い、英語に慣れ親しみ、スピーキング・リスニング能力の基礎を培うため、ALTを小学校・幼稚園に1名配置し、英語のコミュニケーション能力の育成するため、中学校に1名を引き続き配置する。 ・小学校の英語の教科化に伴い、英語専科教員を配置し、授業の充実を図る。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニング、英語・母国語での絵本の読み聞かせ、幼稚園でのキッズイングリッシュ等を通して、異文化理解や世界に視野を広げる場を引き続き設定する。 ・英語暗唱コンテストやALTを活用した英会話塾の内容の充実を図る。

重点項目	幼稚園預かり保育事業の充実
目 的	幼稚園保護者の子育て支援を行う。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の支援員を配置し、幼稚園の開園時間以外の預かり保育を行う。 ・園児の人数が増加すれば、支援員を1名増やす。
成 果 課 題	<p>○預かり保育では、1日概ね50人を預かった。</p> <p>○支援員を2名にしたことで、支援が充実した。</p>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・早島町の子育てを充実させるために、預かり保育の支援員を継続的に配置し、預かり保育の充実を図る。

5 生涯学習重点事業に対する評価

重点項目	講座・教室の充実
目 的	自己研鑽の場を提供するとともに、その成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなびの舎」の講座内容をより充実させて実施する。 <p>→講座を健康・歴史・ESD（ふるさと）の3分野に分け、地域的・社会的課題に対応した内容にすることで、早島への愛着を深め、持続可能な教育のまち「早</p>

	島」の実現を目指す人材を育成する。また、単位制を導入し、取得した単位により受講者をサポーターや講師に認定し、講座の運営等に参画できるようにする。将来的には、サポーターや講師は、地域の中で生涯学習のリーダーとなり、地域課題の解決や町づくりに貢献する人材の育成を目指す。
成果課題	<p>○講座数（H28:32 講座→ H29:34 講座）の増加や内容の充実により、登録人数（H29:42 名→H30:75 名）が増加した。</p> <p>○「まなびの舎だより」の発行（全6回）や広報誌（全4回）への掲示により、多くの方に周知できた。</p> <p>○30 単位以上の認定者（H28:13 人→H29:26 人）が増加し、講座の受付補助等、少しずつ運営に関わっている。</p> <p>○100 単位以上の講師認定者（H28:1 名→H29:6 名）が増加している。</p> <p>●人権講座や野外での活動等、受講者数が少ない講座がある。</p> <p>●認定者や講師認定者の活用の在り方に工夫が必要である。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業・団体との連携や小学生との合同実施を検討し、より地域を知り、地域に貢献するための講座を増やす。 ・特に参加率の低い講座の魅力を広報誌等で広報していく。 ・認定者が企画する講座、認定者が講師となる講座の実施を検討するなど、まなびの舎での学びを地域に還元していく道筋をつくる。

重点項目	講座・教室の充実
目的	図書館機能を活かした、読書活動の推進を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校図書館のデータベース化を図る。 ・0 歳児から高齢者まで、家庭での読書習慣づくりや、読み聞かせ等を推進する。 ・ブックスタートやリサイクル市、朗読講座等の充実を図る。 ・小学生の図書館チャレンジ体験の充実を図る。
成果課題	<p>○地域ボランティアの方や環太平洋大学の留学生の協力を得て、幅広い分野で絵本の読み聞かせを行い、成果があった。</p> <p>○町立図書館で様々な講座を行ったが、どれも好評であった。</p> <p>○住民からの要望により、開館前の午前9時～10時までの貸出については、前日までの申し出があれば、貸出許可をした。ただ利用者はほとんどいない状況である。</p> <p>●中学生対象の読み聞かせ等は参加者が少なく、学校と連携するなど、工夫が必要である。</p> <p>●参加人数を増やすための広報等に取り組み、読書層を広げる必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館と小中学校図書館のネットワーク化を図るとともに、蔵書を増やす。

	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館の椅子・機の整備等、読書環境づくりを行う。 ・2階図書館前のスタディスペースを広げ、自由に学習できる環境を整備する。
--	---

重点項目	講座・教室の充実
目的	家庭教育の向上を図るため、子育て支援研修のできるファシリテーターを養成する。
計画	親育ち応援学習プログラムを活用し、ファシリテーター養成講座を年2回開催し、保護者会等で活用する。
成果課題	<p>○ファシリテーター養成講座を年2回開講し、17名の地域の方が受講し、大変好評であった。</p> <p>●各学校園の保護者会等で、ファシリテーターの実践につなげるとともに、保護者や家族の子育て支援につなげたい。</p>
今後の方向性	・来年度は年3回開催し、修了者には、保育園等の保護者会や集まりで、実際に親育ち応援学習プログラムを実践することで、子育て支援の充実を図る。

重点項目	社会教育施設の整備事業
目的	施設の整備を行い、利用しやすい環境づくりを目指す。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・いぶき荘の畳替えを行う。 ・ゆるびの舎文化ホールのトイレの洋式化を行う。 ・図書館に子育て支援コーナーを設置する。 ・宮山グラウンドのサッカーゴールの改修及びトイレの洋式化を行う。
成果課題	<p>○予定していた施設の整備はすべて完了し、安全で利用しやすい環境を提供できることとなった。</p> <p>●スピード感をもって取り組む箇所と、時間が必要で計画的に取り組むべき箇所を精査し、できることから早急に取り組む必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化している施設が多いため、点検等を行い、修繕計画・整備計画を立てる必要がある。 ・順次、社会公共施設のトイレの洋式化を進める。 ・町立図書館と小中学校図書館とのネットワーク化を図るとともに、読書環境整備を行う。

重点項目	地域コミュニティの活性化
目的	希薄化した地域コミュニティの再構築を図る。
計画	夏まつりや町民運動会、生涯学習まつりなどのイベントを通して、町民相互の交流や地域コミュニティの活性化を図る。
成果課題	<p>○実行委員会を中心に、内容等の改善を図っている。</p> <p>○町民参加の様々なイベントについては、自治会内やグループ内、企業内でコ</p>

	<p>コミュニティ形成が図られたと考えられる。</p> <p>●自治会でのコミュニティ形成への取組に温度差がある。</p>
今後の方向性	<p>・自治会のコミュニティ形成の一つの機会として捉えてもらえるよう、プログラムを更なる改善に努めたい。</p>

重点項目	地域ぐるみによる教育体制の構築
目的	体験学習を中心とした「はやしま学」の事業により、地域ぐるみの教育体制を築きながら、学力向上を図るとともに、郷土愛や異文化理解を深める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日・放課後・長期休業日を利用し、地域ぐるみの魅力ある講座を開催する。土曜はやしま塾、ロゲイニング、国際塾、英会話塾、ESDわくわくタイム、わくわくサマーホリデー等を実施する。 ・はやしま塾での学習習慣づくりと学力向上に向けては、地域の方や大学生スタッフボランティアの参加により、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。 ・ロゲイニングでは、早島町の歴史や自然をテーマに、留学生と子どもが町探検を行い、早島の魅力を再発見するとともに、早島を愛する心や地域への誇りを育む。 ・国際塾や英会話塾では、外国人の講師や留学生等と交流することで、国際的な視野を広げ、異文化理解を深める。 ・留学生による絵本の読み聞かせを通して、異文化に触れる。
成果課題	<p>○環太平洋大学の留学生を中心に、ロゲイニング、英会話塾、絵本の読み聞かせ等で、小中学生が留学生と一緒に活動することで、アジアなど他国への興味・関心が高まり、異文化理解を深めることができた。</p> <p>○夏季休業中に、小学生には、わくわくサマーホリデー（10日間）を実施し、内容の充実を図った。中学生には、ESDわくわくタイム（3日間）を実施し、早島の文化を留学生に紹介することで交流を深めた。</p> <p>○はやしま塾では、スタディパスポートを活用し、自学自習力の向上に努め、30ポイント貯まると「早島トートバック」をプレゼントし、やる気の高揚を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者の少ない事業については、広報の工夫やスクラップアンドビルド等も踏まえ、再検討する必要がある。 ●地域の方や大学生等に広く協力を得るため、学習サポートボランティア・システムの充実を図る必要がある。 ●英語検定・漢字検定を行っているが、受験生が各50～70名程度でやや少なく、家族や友達との挑戦につなげたい。

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが受け身ではなく、自ら学びたい・知りたい・調べたいと思えるように、仕掛けの工夫を行う。 ・夏季休業中については、小学生の学習習慣づくりや学力向上に向けて、日数や内容等の改善を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・英語検定や漢字検定に取り組む環境整備を行っていく。

重点項目	公民館モデル検討懇談会の開催
目的	公民館建設も含め、今後の在り方を検討する。
計画	早島町公民館モデル検討懇談会を立ち上げ、先進地視察等を通して、今後の公民館の在り方を検討し、提言にまとめる。
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館モデル検討懇談会の委員として、学識者、老人クラブ、婦人会、小学校PTAの代表等に入っただき、年3回実施した。 ○2回の先進地視察等を通して、新たな公民館モデルについて他地域の意見も含め、活発な意見交換を行った。 ●県外でモデルとなる施設があれば紹介できるようにしたい。視察ごとに意見をまとめ、来年度の提言に活かしていく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度、検討懇談会を3回実施し、新公民館モデルの在り方を検討し、2年間の意見を集約し、提言にまとめる。

重点項目	健康づくりとスポーツ活動の推進
目的	町民の運動習慣の確立とニュースポーツの普及に努め、健康づくりを推進する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操、ウォーキング講習会を開催する。 ・年齢・性別を問わず、楽しめるボルダリングやスラックライン等のニュースポーツ体験会を実施する。
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○いきいき広場において、遊びながら体幹を鍛える、ボルダリングやスラックラインの体験会を1日開催したところ、朝から夕方まで、多くの子どもや保護者等の世代を超えた参加があり、大変好評であった。 ●1日スポーツフェッショナルのような、様々なスポーツを気軽に楽しめる日の設定を考えたい。 ●ラジオ体操の講習会を開催するなど、正しいラジオ体操の在り方を地域に普及する必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりや身体づくりに向けて、新スポーツを取り入れるなど、多くの方に運動習慣が身につく場の設定をしていく。 ・地域総合型スポーツクラブの設置に向けて、幅広く意見を聞く場をもち、2～3年後の実現につなげていく。

IV 点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学大学院 准教授 村松 敦

教育委員会活動について

月1回以上の頻度で教育委員はもちろん町長や学校関係者、地域住民の代表や学識経験者、子ども達を含めて様々な立場の方々を集め、熟議を重ねてこられたのは、当事者意識を高める上で欠かせないことであり、その努力に深く敬意を表します。特に、教育委員会会議については事前の資料配付だけでも大変だと思いますが、議事録の公開を行っていくには事務局にとって相当の労力が必要だったことと拝察します。

これらの会の中でも昨年度において特筆すべきは、「子どもと大人の意見交流会（熟議）」と「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」ではないでしょうか。前者は2回目、後者は4回目となりましたが、こうして蒔いた種が、地域とつながり未来を拓く「早島っ子」に触発され、地域の大人達にまちづくり（人づくり）に対する「当事者意識」が芽吹き始めているように感じます。

事務局によって分かりやすく工夫された町広報誌の誌面は魅力的ですが、教育委員会会議でも提案があったように、マスコミに取り上げられる回数も増えてきているようです。今後は、新聞やテレビなどマスメディアの活用をさらに発展させることを希望します。それだけのコンテンツになり得ていると思いますし、子どもや彼らを指導する教職員、地域の皆さんにとっても一層励みになることと思います。

なお、学校施設の改修や人的配置についてですが、限られた予算ですから評価にも記載のとおり中長期的な展望が不可欠です。たとえば、トイレの洋式化やボルダリング施設の設置などは時代の流れに沿った良い取組だと思いますが、早島町学校教育ビジョンや教育振興基本計画に照らしてどのように位置付けられるのかを明確にしていきながら、前向きな取組を意図的・計画的に推進してください。今後、総合教育会議において、町の総合計画との調整や義務教育学校に向けての具体的取組などが必要になることと思います。

学校教育について

学校教育における「はやしま学」は、幼小中12年間のカリキュラムづくりから、その効果的な実施に向けた研修や幼保を巻き込んだチームによる研究へと新たなステージへと進んでいます。中でも特筆すべきは、国のESD研究指定を受けたことで、全国発信のできる絶好の機会となり、教職員のカリキュラム開発や授業改善への意識が高まってきていることです。文部科学省での中間報告や作成したリーフレットからも、大きな成果を得ていると確信をしました。来年度の最終報告の研究成果発表会が楽しみです。

また、「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」のステージで異なる服装の保育園児と幼稚園児が元気に歌ったこともすばらしいと思います。設置者の異なる保育園にまで学校教育ビジョンに対する「当事者意識」が浸透し、本当の意味で全ての町民が学び合い育ち合う中心に、子どもと学校園があることを参加者が実感した瞬間だったと思います。幼稚園や保育園は保護者と密接に関わり合っているので、この広がりには地域へのインパクト

が大きかったはずですが。かの坂本龍馬は「事は十中八九まで自らこれを行い、残り一、二を他に譲りて功をなさむべし」と言いましたが、今後は学校園の主体性を基軸に、保幼小中学校園の縦の軸と、家庭・地域との横の軸が互いに織り合いながら、子どもたちの姿からの発信が、町の活性化に大きな影響を及ぼすものと信じています。持続可能な教育の取組にするためには、いかに地域力をブランドとして学校園の教育力に活かしていくのか、さらに学校園の教育力をいかに地域力に活かしていくのか、持続可能な協働・協学・協育の基盤は必要不可欠であります。

なお、数値目標のうち「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは進んで助けている」と回答した小中学生が着実に増えていることは嬉しいことですが、不登校については、予断を許さない状況であり、早期発見と適切な初期対応は欠かせません。町適応指導教室「ふれあい教室」や中学校の「心の教室」、小学校での登校支援員の複数対応により、少しずつ成果が出てきていますが、長期化した子ども達に対するサポートを更に進めていく必要があります。一人一人を大切にしたい潤いあふれる一貫教育が、地域に誇りと愛情をもつ子どもの育成につながることを期待しています。今後も、「喜んで登校、満足して下校、行かせたい学校園、行きたい学校園」を目指して、地域一体となった取組を進めてください。

生涯学習について

今年度は生涯学習に対する重点項目の増加が顕著です。このことだけでも、学校教育ビジョンの「子どもと学校を中心に置いて、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、“協働・協学・協育”の町づくりを進める」と謳っていることが具現化している証だと思えます。

中でも特筆すべきは、公民館講座の登録人数や単位認定者が急増していることや、外国の絵本の読み聞かせやはやしま塾、ロゲイニングなどに環太平洋大学の留学生が継続的に関わっていることではないでしょうか。地域の方が100単位を認定されるまで受講したり、日本人と同様に英語を母語としない留学生が、第二言語である英語で日本人と関わろうとしたりするのは、そこに自らを豊かにできる充実感があるからこそ、活動に「当事者意識」が生まれているように感じます。講師認定された方が、公民館講座だけでなく子ども達や留学生に教えたり、留学生が公民館講座の講師や子ども達から早島や日本を学んだりするような広がりも持続可能な好循環につながっていくのかもしれない。

なお、放課後・土曜はやしま塾、はやしま国際塾、土曜 Enjoy English Juku など学校外に多様な学びの場ができ、英語検定・漢字検定の表彰制度、英語暗唱コンテストといった学んだことの手応えを実感できる枠組みもできましたが、必ずしも参加者が多いものばかりではないようです。参加者数だけが全てではありませんが、量的拡充も含め、質的充実を大切にいただき、整理統合を検討する必要もあるのではと思います。学校教育の充実には生涯学習の充実でもあり、今後も、「生涯学習のまち・早島」として、より一層の推進を期待しています。

今後に向けて

様々な立場の方々が熟議を重ねて創り上げた学校教育ビジョンが浸透し、それに基づく取組の効果が少しずつ芽吹いているように感じます。今年度はこの若芽が大輪の花を咲かせるための岐路と言えるのではないのでしょうか。

この2年は教育委員会事務局による様々な場づくりや学校園による教育活動の改善などソフト面の充実に多大な労力がつぎ込まれました。しかし、労力には限りがありますから、効果を見極める必要があります。また、ハード面の充実も予算の制限がありますから、「何を、どこまで、いつまでに」実現するか、期限設定(工程表)を定めておく必要があります。つまり、学校教育ビジョンの具現化に向けてどのような学校施設にするか、町当局と議論する段階から、決める段階に進まなければなりません。

全体的に、今年度確実な一歩が、皆様方のご尽力で、着実に進んでいるものと確信をいたしました。来年度も、本稿で述べた教育委員会活動をはじめとする諸事務・事業に対する意見を参考にいただき、「学校教育ビジョン」の着実な具現化、更なる発展を大いに期待しています。

V おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学大学院の村松敦准教授から、点検・評価につきまして、ご意見をいただき、今後の方向性についてのご示唆をいただきました。

来年度からは、新学習指導要領に示された、小学校高学年での英語教育や小中学校での道徳の教科化など、国の動きや現状を踏まえて、持続可能な早島の教育の実現に向けて、先行実施をしていきたいと考えています。

本町では、これに先駆け、平成25年10月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を3つの重点項目に掲げ、平成27年度から、早島町第4次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その具現化に向けて取り組んできたところです。

こうした中、環太平洋大学の留学生の方に大勢参加していただき、町探検ロゲイニングや絵本の読み聞かせで、早島の魅力を再発見したり、土曜 Enjoy English Juku やはやしま国際塾で国際的視野を広げたり、道徳郷土資料「私たちの早島 つなげ未来へ」を活用した、豊かな道徳授業や地域フィールドワーク教員研修など、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、生涯学習に向けた「協働・協学・協育」の町に、一歩ずつ前進しているものと確信しています。

また、文部科学省の研究指定を受けて、保幼小中一貫教育に向けて、E S D の視点を踏ま

えた、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築や、教員研修の充実を図るなど、本町のこれからの一貫教育のあり方について、様々な視点から検討し、学校教育ビジョンの基盤をつくってきました。

来年度は、学校教育ビジョンの更なる実現に向けて、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスを大切にして、数値から見える現状をきちんと分析・検証するとともに、まずは、施設分離型で小中一貫型教育を進めていくうえで、「何を、どこまで、いつまでに」するのかを明確に示したうえで、小中一貫教育にふさわしい運営体制を整え、一体的な教育課程の編成に着実に取り組んでいきたいと思えます。そして、「早島町の子どもたちの成長のために」を合言葉に、常に先を見据えて、PDCAサイクルをスパイラルに回しながら、教育行政を計画的に進めてまいります。